



HSK

みなつき
水無月号

NO.107 2009.6.10号

Advocate

1973年1月13日第三種郵便認可 HSK通巻番号447号

発行/2009年6月10日

編集者/石澤 利巳

住所/〒063-0812

札幌市西区琴似2条5丁目3-5マンションMOMOI F

特定非営利活動法人 札幌・障害者活動支援センターライフ

TEL 011-633-6666 FAX 011-615-4132

H P <http://npolife.net/>

発行/北海道障害者団体定期刊行物協会

定 価/200円



共同連札幌マラソントーク ～日本の就労支援を問い直す！第2弾！～

どこに向かう 障害者自立支援法と障害者就労

講演会レポート

もじや 熊野 宏和

『日本の就労支援を問い直す 札幌フォーラム第2弾 ～共同連札幌マラソントーク「どこに向かう障害者自立支援法と障害者就労」』が5月16日、札幌西区民センターにて行われました。年商1億5000万円ものクッキーを売り出す、滋賀県にある「がんばカンパニー」の施設長中崎ひとみさんのお話から、共同連事務局長である斎藤懸三さんからの基調報告があり、最後にシンポジウム「共に働く現場からの提言」として、各方面の方々からの熱いトークもあり、聞き応え充分の講演会になったと思います。

中崎さんのお話の中で、がんばクッキーの話がありましたが、実はライフ事業所の一つである「コンプリオ・ひだまり」でも、「がんばクッキー」を販売させていただいています。味の種類もたくさんあり、常に新しさと美味しさを求める姿勢が伺えます。

職種は違いますが、事業を展開するものとして気になるのが、やはり年商1億円もの売り上げを、どうやって作りだしているのかということです。これに関して中崎さんは、直接の販売自体は3300万円程度で大半は卸販売が占めているとのこと、例えばひだまりもそうだし、ネットショップで有名な楽天などと提携してい



るお店にクッキーを卸している、他にも生協や街の自然食品販売店など、全国の作業所へも卸しているとのことで、合わせると1億円を超えると話しされていました。売り上げを上げる市場として福祉市場があり、真剣に頑張っ販売を行っていけば3000万円はあると教えていただきました。売り上げがない、新しい取引先が欲しいと思っているだけの自分たちの意識を改革させられるお話でした。他にも売り上げを伸ばすための5つのポイントをあげてました。

1. 甘えない、これは時間がないからとか休みだからという言い訳は商売をする姿勢として基本的に考えられないとのこと。
2. 断らない、せっかく仕事をいただいているのに、引き受ける個数に制限を設けたりしますが、自分のとこ

るで引き受けられる限度はあるけれども、他のところと協力することによって可能であれば、断らずに受けるべきであるとのこと。仕事に関しては、一度断ってしまうと次の仕事はなかなかきません。まずは、どうすれば引き受けることができるのかを考えることが必要とのこと。

3. 共働、職員が指導するだけでは、売り上げにはつながらないことは、障がいスタッフもよくわかっています。障がいのある人もない人も、共に汗を流し、共に頑張っているその共働であるとのこと。4. 共育、勉強する内容は人によって違えど、一緒に勉強して高まっていくという考え。5. 三方よし、近江商人の考えとして「売り手よし、買い手よし、地域よし」というものがあり、自分のところだけが儲かればいいのではなく、買ってくれたお客様にも満足していただき、なおかつ商品を元に商売をしている地域自体も良くなっていく、とのこと。5つにあげられたポイントは基本のように感じました。

実際に働く仲間の障がいの種別として知的の方22人、精神の方6人、身体の方5人となっていて、大半はクッキーの製造に配置されています。給料の面では平均9万円を支払い、最低賃金除外などは適用せず、社会保険は13人が加入していて、その内何人かは家族を扶養しているとのこと。事業所として立ち上げ、給料を積み立てし、社員旅行でグアムに行ったりもしているようです。さらにお話の中に、できる仕事、できない仕事があるとありました。先月の富田さんのお話にも共通する部分があり、障がいの程度によって、その人ができる仕事は当然かわります。ただ障がいのない人だって全部の仕事ができるわけではありません。人それぞれ役割を担って初めて仕事は成り立ちます。障がいがあるから仕事ができないのではなく、その人ができる部分を、得意な部分を伸ばしていくようにすれば、それだけでも十分に仕事は成り立つし、売り上げにもつなぐとお話されていました。

今後自分たちの事業の見直しも含め、大変参考になるお話でした。

次号では、後半の共同連事務局長からの基調報告の内容と、シンポジウムの内容について報告したいと思います。

講演会感想

叱咤激励された気分

ひだまり 吉川 香織

がんばクッキーはひだまり店舗での売り上げNo.1のクッキーです。

そのがんばクッキーを作っているがんばカンパニーの施設長さんの話を聞けるといって、とても楽しみにしていました。コン・ブリオひだまりに生まれて変わって半年が過ぎ、何とか売り上げアップにつながる話はないかという思いもありました。

商売をしているという自覚を持つこと、障がい者がたくさん働いているからといって甘えないこと、お客さんの注文は断らないこと等、中崎ひとみさんの軽快な関西弁で、叱咤激励されているような気分になりました。

ひだまりの売り上げが伸びることで「三方よし」の理念のように、働いている仲間もお客さんも地域もよくなっていけばいいなあ…と思いました。



がんばカンパニーの施設長 中崎ひとみさん

総合司会を担当した 共同連マラソントーク

ひだまり 藤井 孝雄

5月16日(土)に西区民センターで共同連マラソントークがありました。共同連マラソントークが北海道で開催されるのは4年ぶりです。

前回に引き続き、ひだまりの販売と同時進行で行いました。特にペットボトルのお茶が20本もあっという間に完売したことなので、今回は多くもってくることにしました。僕は鈴木昭子さんと総合司会を担当して、共同連事務局の

内田弘樹さんから共同連全国大会（愛知大会）についての告知をしました。

マラソントークパート1は、がんばカンパニーの中崎ひとみさんのお話を聞いて、がんばクッキーは年商1億5000万円分稼いでいるのは、一体なぜその秘密が明らかになるのでしょうか。

パート2は、共同連事務局長の斉藤縣三さんによる基調報告をして、パート2終了後に午後2時55分頃に一時休憩をとって、午後3時から再開しました。

パート3のシンポジウムがあって、告知で僕がつまずいたところで、みんなに大爆笑のおかげでがんばクッキー59個は、あっという間に全て完売をして、大成功におわりました。

マラソントーク終了後に、やまべで打ち上げをしてこうして共同連マラソントークは、何事もなく無事におわりました。



共同連事務局長・名古屋わっぱの会の斉藤縣三さん

思いをひとつにして働く

Cafe de キバリヤ 鈴木 昭子

5月16日に西区民センターにて、札幌での2回目のマラソントークが行われました。始めに、共同連事務局より、自立支援法と障害者就労の現状についてのお話があり、内容としては「障がいがあってもなくても働きたいが地方自治体は、障がい者の就労支援が追いついていない」だからこそ、地方から国を動かしていこうと思っている、という報告がありました。

パート1で、がんばカンパニーの中崎さんより、事業所紹介ということで、当初障がい者雇用が進まず、悩んでいる頃にコミュニケーションが苦手な人が働けるようにとクッキー工場を作ったことや、売上を上げなくてはならないときに、周辺の作業所に声をかけ、助けてもらっ

たりしたなどというエピソードから始まり、現況では雇用契約を結んでいる人たちの中には、三障害を持った人もいるがダルク（依存症）の人もいらっしゃるということ、製造・販売・営業の3部門に分かれて仕事を進めていて、特に製造部は年間500カ所以上の所から見学者が訪れるそうです。また販売はスタッフ5名に障がい者3名で一日中販売しているとのことで、年間売上の凄さを実感しました。

そんな話の中でも、私は障がいがあるからこそ「甘えない」、また難しい仕事は「工程を分担してみんなですること」と中崎さんご自身がメンバーさんにずっと伝えてきたことで、「できないことはない」という言葉がすごく印象に残り、障がいの有無に関らず、挑戦し続けることが大切なのかなと思いました。

パート2の基調報告では、共に働くことを次の世代へどう伝えるか、それからイタリアの精神病院を解体して共に交わりながら、一緒に働く取り組みがあるということをおっしゃられていました。

5分程の休憩を挟み、パート3は、「共に働く現場からの提言」というテーマでシンポジウムが行われました。滋賀のねっこ共働事業所の白杉さんからは、滋賀では財政予算がない中での作業所制度の廃止の取り組みをしたのが、全国初であることと、滋賀の社会的事業所と自立支援法との違いが報告されていました。

それによると、自立支援法は障がい者に雇用の場を提供し「働かせる」が、滋賀の事業所制度は現実として、対等に働くことができると話されていて、35年前の作業所運動を始めた頃は、札幌と同じ作業所制度からのスタートだったことも初めて知りました。そして、実習を終えたメンバーさんを新しく雇用する際、迎えたいが財政的なことを考えていかななくてはならないと諦めていたとき、周りのメンバーさんたちがみんなでお金を減らしても、新しいメンバーさんを入れようと提案して結果雇用できたことが、良かったというエピソードを披露された後に、財政的にはどこも厳しいけれども、地方の制度から育成していけばいいのではないかと提案されていました。

次に、もじやの影山さんからは自立支援法を利用しながらの運営でも、いくつかの制度が事業所を運営する上での矛盾点や、共に働く上で

雇用する側と雇用される側での壁があることと、A型事業の限界として、障がい者にとって「一般就労が理想なのだろうか？」という問題提起をしてから、新しい雇用の形として現時点とは違う雇用側と障がい者の関係づくりでもいいのではないかと話されていました。

次に、きばりやと同じ協働事業制度を活用している、ぱおの荒野さんからは、スタートして3カ月が経ったが、もともとは、公共の場に障がい者が働ける場所を作って欲しいと札幌市にずっと提案をしてきた、という話から始まり、運営する上で、障がい者従業員を一般就労させることを目標に活動してきたそうです。その反面で一般の会社と障がい者の働くうえでのギャップがあって一般就労をさせるには難しいが、一般の会社とその間を埋めるための「飲食業」として現事業所のスタートになりました。会社は現実として、「仕事ができる人を求めている」が、例えば遅い人のためにも、やり方によっては働ける場を提供できるし、自分の力を発揮できる場所があることを発見させてあげられることの大切さなど、いろいろな形の働く場を作りたいとの報告がありました。

そして、名古屋のわっばの会の斉藤さんからは、現在の名古屋での作業所制度の在り方と、自立支援法が成立したことによって、作業所が地域活動支援センターに切り替えられているところが多いという話があり、わっばのように、障がい者と健常者の給料分配が同じ事業所を名古屋市にお願いしたことも話していて、現在は同じような事業所が4カ所あるそうです。事業所は障がい者の給料を売上げから払わないと、制度から違反してしまうという話もありました。

最後に、コメンテーターの花田さんより、まとめで「共に働く」という思いは、果たして健常者従業員と障がい者従業員は、同じものなのかということ、それから障がい当事者も健常者も、互いに分けもっていく仕事が必要ではないかということ、対等な関係というのは存在するのか？ という話もあり、これは意外だったのですが、労働基準法というものは平等・対等ではないから作られたというエピソードがまとめとしてありました。

また、事業所制度の違いの説明があり滋賀県の社会的事業所の考えは、「新しい働き方」ということと、札幌の協働事業は特例子会社など

に行くための「ステップアップの場」だという考えで、ちょっと違う点があるということ。働くにはどういう場所を作っていくのか、企業で働ける・働けないは別として、環境によって否定される障がい者がいるのだから、環境を整えていくことが大切ではないか、という提言でシンポジウムは終了しました。その後、質疑応答があり、会は終了しました。

話を聞いて感じたことは、滋賀の社会的事業所制度と札幌の障がい者協働事業の考えが違うのにすごく驚いたりもしました。でも、現在自分たちが働いている中では、共に働いていくそのものは形になっているところもあると思いますが、ひとりひとりの考えや思いが、理想として滋賀のねっこ共働事業所やがんばカンパニーさんのように、いろんな壁や考え方の違いがあっても、思いをひとつに働くことを掲げ、その思いを障がいの有無に関らず、もっていきながら活動していきたいと思う、そんなマラソントークでした。



無添加、無農薬にこだわりたい

たねや 小黒 悠佑

がんばカンパニーの施設長、中崎ひとみさんによる報告が私には強く印象に残りました。

がんばカンパニーはがんばクッキー(コンブリオ・ひだまりでおなじみですね)で年商1億5000万円を売り上げている事業所です。

中崎さんは言います。「がんばクッキーは味が凄く美味しいわけではない。それには、たくさん添加物を入れないといけない。けど私たちは全て無添加、無農薬でお客様に安全なものを提供したい」、その言葉に、事業をすることの覚悟と責任を強く感じました。私も強い意志をもってこれからの仕事に臨んでいきたいと思います。

もじら



先日、第12回総会が行われました。

100年に一度の不況と言われている現在の世界経済。日本も例外とは言えません。総会の中でもライフの状況が述べられ、決して楽観視できない内容のものでありました。障がいをもちながらも就労している私たちですが、ライフがこれからも発展していき、広く社会に貢献していけるよう、スタッフ・メンバーともにかんばっていかうではありませんか。

ベテランさんもがんばっています！

平田 信也

もじらの工場に勤めて二年目になります。もじらの仲間は愉快的な人たちで、たまにはジョークを言ったり楽しみながら仕事をしています。

仕事の忙しい時は名刺の仕事に集中して一生懸命やり身体がついてこないことがあります。頑張っている仕事をしています。今では工場長に見てもらわなくても、ある程度の仕事ができるようになったと自分でも実感しています。

僕にとってのもじらは、仕事だけでなく人間関係でもきちんとした挨拶や周りの人の接し方など、人としてやらなければならない常識、義務なども大切にしています。そういうことができることによって人とも上手く付き合い仕事にも上手く応用できると思っています。

また、大きい印刷の機械も調整や機械操作など少しずつ操作させてもらいながら、自分の仕事の視野を広めたいと思っています。まだまだ、覚えることがたくさんありますが、ライフの仲間と一緒に頑張っていきたいと思っています。

今が青春まっただ中です。オレはバリバリ、仕事するぞ～！

○工場長より：印刷室にも新しい人がはいつてきて、いい刺激になると思います。私自身、印刷機を動かしていますが、新人さんにも一日も早く機械を覚えてもらって活躍してほしいと思っています。印刷はボタン一つで簡単にでき上がるというイメージがもたれているのではないのでしょうか？決してそうではありません。長年の経験が必要なのです。インクの濃度や水の量など、結構神経をつかうのです。

そういった意味も含めてみんなで仲良く力をあわせて仕事をしていきたいとおもっています。

新人スタッフ紹介

永島 勝章

6月1日付けでもじらに入りました、北海道リハビリから来ました永島勝章です。これからお世話になりますが、早く仕事になれるよう元気に頑張っていきたいと思いますので、宜しくお願いします。

南條 恭彦

この度、皆さんの仲間になりました南條と申します。まだ、わからない事ばかりで、お役に立つまでは程遠いのですが、一生懸命努力して頑張りたいと思いますのでよろしくお願い致します。

門田 輝美

5月21日からもじらのメンバーとしてお世話になっています。今までMacのオペレーターとして印刷会社で働いていたので、これまでの経験を活かす仕事ができ、とても嬉しいです。

みなさん、とても温かい方ばかりで楽しい雰囲気なので、よりよい仕事ができるように頑張りたいと思います。

よろしくお願い致します。

○編集部 加藤

新しいメンバーが3人も増えて、もじらは活気づいています。みんな一生懸命で新鮮です。

これを書いている私も入社して、やっと1年目になりました。新しく入ってこられたかたが、安心して働いていけるように、先輩としてがんばらなくちゃ…と思いきや、私は何日もかかって覚えた仕事を、一日で覚えてしまったり優秀な後輩ができて、私の幕はないようです。

皆さん、仲良く仕事しましょうね！

TO たね通DAY

共働サービスたねや

063-0812
 札幌市西区琴似2条5丁目
 マンションMOMO1F
 営業時間 9:30~18:00

TEL (011) 614-1871
 FAX (011) 614-1873

お電話お待
 ちしており
 ます!!



たねやの事業内容

たねやではオリジナルローソクや軽作業（チラシなどの折・丁合・帯止めなど）やデータ入力を行っています。いずれも責任をもって承りますので、ご連絡お待ちしております!!

たねやオリジナルローソク作ってます

岩崎 佑司

ローソクに絵を書く練習をしています。腕を磨いて、質の高い物ができるように頑張ります。

小山 譲

ローソクのデザインのために絵を書いて商品の幅を広げていきたい。一つ一つに感性込めて名づけて、一商入魂!

関 隆広

もっと駄目なことを直したい、もっとできるようになりたい。きれいなローソクも作りたいです。

たねやオリジナルローソク紹介



好評発売中!
 色付きキャンドル
 キューブキャンドル

たねや色付きキャンドルは 100円(税込み) から
 キューブキャンドルは 200円(税込み) からとなっております。
 この他にもいろいろな形や模様のキャンドルがございます。

山本 守一

最近、足が動かなくなって、人に頼みことをするけれども「やれる」という意気込みがひとつの失敗をしてしまうことが多くなって、みんなに悪影響をしてしまうことが多く、そしてできないからといって人に指図ができなく、自分勝手に動いてしまう。できないのなら人に指図をしていっしょにしようとしているのですが、それもまたできなくて、自分一人で頑張っているのが、何となく嫌になってきた感じがします。

宮澤 智成

紙を何回も折っているうちにだんだん手のペースが上がって仕事モードになってくるうちに、仕事が早くなってきました。僕はなんぼつらい仕事があっても僕は、仕事にはりきって頑張ります。頭の脳を仕事モードにして、くじけずに仕事を頑張っていきます。だんだん僕も仕事をやっているうちに、なんか楽しくなってきました。

大島 隆也

僕は、まだ経験したことのない仕事があるので、覚えたいです。納品や帯や積み込みがしてみたいです。ポスティングも覚えたいと思っています。それから、周り状況に合わせた行動がとれるように頑張りたいです。

「詩」 ローソクよ

山本 守一

あなたは小さな炎を燃やし温かさを感じさせてくれる
 そんなあなたを見るたびにふと安心感が生まれてじっとみつめてしまうことが
 これからの歩むささやかな道しるべになると思う

札幌市障がい者協働事業
共働事業所

きばりや

キ

バラネット☆☆

個性豊かなスタッフが共に働いています。

The☆仕事内容

石川 和寛

最近のキバリヤは忙しいです。議員さんからのポスティングがあり、発送作業までいろいろと苦労しています。これから夏になってくると、どんどん気温が暑くなって特にポスティングが大変になってきます。ポスティングが終わったら発送作業の下準備がまっています。次々と仕事があるのは良いことだけど…なんだか大変です。だけれども、嬉しいことに可愛い女性常勤スタッフがキバリヤに来た。

仕事かんばります。

今月の仕事をやったこと

織本 亜哉子

今月の仕事はポスティングをたくさんしました。みんなで一生懸命協力しながらやりました。

いつも通りの発送の仕事が2つあり、封入の仕事で封をするのが少し難しかったです。

ポスティングもたくさんして、坂を登るのが大変で、ポスティングのものをたくさんするのが時間がかかったところもありました。気温が高い時もあり、ポスティングの流れが悪くなったり、天気によってポスティングの場所に行っても戻ってきてしまったこともありました。

いろいろな仕事のなかで機械折りもおちついてやってみたい。みんなと協力してこれからも仕事をがんばりたいです。これからも仕事を一生懸命やっていきたいです。

今できること

程 乙九

5月初めにリフレッシュできる連休があって、皆さん元気になりました。でも長い連休の影響で納品日が短くなり、一層忙しく過ごしました。その代わり仕事の満足度も高まったと思います。

きばりやでは、固定的にくる仕事はいくつかありますが、間にくる仕事の隙間をうまく回すのが課題でもあります。先月のアドボケイトの「もじや」の仕事が減り、苦戦している記事を読んで考えさせられました。実は、今月のきばりやはポスティング、製本、テープ起こし、新聞発送など、猫の手も借りたいくらい忙しかったのですが、下請け仕事がほとんどである「きばりや」にとって、元請けである「もじや」の悩みは他人事ではありません。自分自身も反省することや改善すること、またその流れに積極的であったかを考えていくことが課題になると思います。



Cafe de キバリヤ

◎メニュー表もかわり、心機一転、ファイト一発のCafe de キバリヤです。

梅雨がないという北海道ですが、ジトツとする日もなくはないです。元気にいきたいものです。というわけで6月も「ニコニコ限定メニュー」を6/21(日)～6/27(土)に予定しています

A プレート 単品350円 セット500円

(ライ麦+サラダ+卵+しもかわのチーズ)

B プレート 単品350円 セット500円

(ライ麦+ロールパン+サラダ+お豆のディップ)

C プレート 単品350円 セット500円

(ライ麦+ロールパン+サラダ+ヨーグルトクリーム
+ジャム)

ケーキセット 420円

※セットのドリンクは紅茶か

コーヒーからお選びいただけます。

デザート、飲み物付きの季節の
メニューです！おたのしみに。

Cafe de Kibariya
by 池畑



札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内3階喫茶コーナー

TEL・FAX 011-758-6533

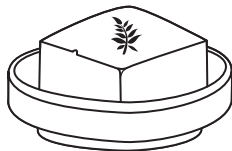


店舗編 ◆お豆腐物語◆

昨年の夏ごろから今まで好評いただいていた札幌大豆を使ったフクイさんのお豆腐が、フクイさんの都合により仕入れることができなくなりました。そこでひだまりメンバーは考えました。

豆腐は、毎日の食卓に必要なものである、このまま豆腐がないのはよくないのではないかな。

話し合いを重ね、各豆腐店に電話で問い合わせし、消泡剤を使っていない豆腐をさがして買い求め試食をしました。



- ◆お豆腐のかたさはどうか？
- ◆あげの味はどうか？
- ◆こんにゃくの味はどうか？

いろいろためし、みんなが納得したお豆腐にたどりつきました。

それが新川のIさんの豆腐です。

※次回号は野菜のことについて説明させていただきます。



キッチン編

自分たちで栄養面・バランス・色どりなどを考慮し、コン・ブリオひだまりのメンバー全員の意見もとりいれながら献立表を作成しています。



食材にもこだわりを持って、国産肉を使用し野菜などは、なるべく国産物を使用するよう心がけています。毎日朝9時半より、献立表にもとづきスタッフメンバーと共にお弁当づくりに一生懸命取り組んでいます。

今後も地域の皆様のご協力を得ながら、スタッフ、メンバー一同、おいしいお弁当作りをしていきます。

定休日：毎週日曜日・祝日
営業時間：お弁当11:30~13:30
店舗10:30~18:30
 札幌市西区琴似2条3丁目2-37 サンハイム1F
 TEL: 011-615-4131 FAX: 011-615-4132

ひだまりおすすめ サンコーの新商品

- ★えび満月 60g 210円
 サツツと香ばしいえびと磯の香りです。
- ★黒五かりんとう 120g 231円
 5つの黒色で中国では仙人と呼ばれる食物です。
- ★信州高原 牛乳かりんとう 125g 231円
 ーさやかな風 ぶるさとの味ー 信州高原産の牛乳100%を使用し練りけた自然風味のかりんとうです。
- ★豆乳どーなつつ 90g 179円
 特許番号3056210号
 特殊製法でもっちりした食感をぜひお試しください。
- ★こんにゃくわらびもち(きな粉付) 9個入り 90g 210円
 冷蔵庫で冷やすとさらにおいしいです。
- ★パイとクッキーと重ね焼き 5本入り 284円
 パイとクッキーを合体したものを焼き上げました。
- ★第3世界ショップから
 「元気大豆こつぶちゃん」(イカ)100g 336円
 小粒大豆の変身して昔ながらのマメ菓子を作りました。



がんばクッキーの豆知識

がんばクッキーは、北海道では札幌のひだまりだけが販売している商品です。種類はかたいタイプとやわらかいタイプがあります。

クッキーの製法は、「抜き型タイプ」「アメリカンカンントリータイプ」「アイスボックスタイプ」「しほりだしタイプ」「ビスコッティタイプ」の5種類があります。それぞれによって、歯ざわり、味わいがちがい、さらにたくさんのテイストがあります。

年間通して34種。期間限定が9種あります。ぜひおためしください。

がんばクッキーは種類は売り切れる場合もありますのでご了承ください。

ひだまりにお気軽に問い合わせください。





みなさん、初めまして。

ヘルパーセンター南結 管理者 笠井 衛二

今年の5月7日から、ヘルパーステーション南結に勤務いたしました笠井衛二といたします。

3月末で札幌市役所を定年退職となり、以前からライフの理事をしていました縁もあって南結に勤務することになりました。よろしくお願ひします。

まずは、私の自己紹介。一見ものすごく若く見えがちですが、なんと61歳になっています。

また、みるからにスマートで華奢な体型とご心配でしょうが、75kgと標準体重くらいはあって、それからよく人に「目鼻立ちからするとギリシャ系の人ですか?」と聞かれますが、私の曾々爺さんは四国の山奥から北海道にやってきました。体型やしぐさ、目や髪の色、喋り方や行動などで人を判断することはできませんね。

ヘルパーの役割についてお話します。ヘルパーは障がい者(児)の程度や状態によりお手伝ひしますが、サービス内容は大きく分けると五つになります。

- ① 家事援助 掃除や買い物、料理等
- ② 身体介護 直接体に触れる介護(入浴や整容等)
- ③ 通院等介護 通院等を介護する
- ④ 重度訪問介護 重度の障がい者に長時間の援助
- ⑤ 移動支援 通勤や通学を除く外出を援助〔移動支援のみ、全身性障がい視力・知的精神障がい者〔児〕限定〕

以上のサービスをヘルパーから受けたい場合は、お住まいの区役所の保健福祉課相談担当係に自立支援法の申請が必要となります。申請に必要なものは、障害者手帳、印鑑、前年度の収入がわかる書類(年金の振込み通知等)です。その時にどんな援助をどのくらい必要か口頭で伝えてください。①～④については、申請後10日位で区の職員が百数項目の聞き取り調査を行います。

原則自宅で行いますが、作業所でも可能です。それら調査書や主治医の意見書が区分判定審査会にかかり、1～6の区分が決まるのが申請して約2カ月。決定日からサービスは使えるようになります。決まった区分によりサービス内容と時間が決められます。例えば区分2では家事援助10時間以内、身体介護10時間以内と札幌市では決まっています。また、家庭内で協力者が不在とか身体と知的の重度合併等は時間の加算対象となっています。自己負担は原則1割ですが、月限額の設定がなされています。

各サービスの内容については政令等(例えば平18厚令171代27条、同居家族に対するサービス提供の禁止)の法律で種々の制限が設けられており、ヘルパー利用者の意に沿えない場合も多々生じています。ヘルパー利用は、自立支援法という公費の援助ですのでご了承ください。

今回は、援助の基本、家事援助について説明しましょう。ヘルパーは基本的にその人のご自宅にお伺ひして、お手伝ひをします。一般的には調理や掃除、買い物などが主になります。特に調理はその人の好みや味覚がメインとなりますので、難しい仕事です。味の傾向を教えてください、何度もの味見を経て一つの料理ができあがります。

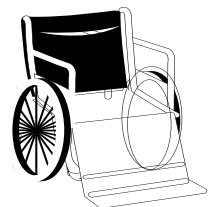
ヘルパーは美味しいの一言をもらえるようにがんばっています。また、懐石料理やパーティ用オードブルとかの特別な料理は作りませんし同居人やお客さまの食事も用意はできません。

他には、使っていない部屋の掃除や外の草むしり、雪かき、大掃除も対象外です。買い物は指定されたものを買いに行く場合と、利用者と同行で行くのと二つがありますので、体調を考えてお決めください。代読や代筆も可能ですので、ご利用ください。まずは、私どもヘルパーセンター南結にご相談ください。

ヘルパーさん募集中!!

ヘルパーステーション 南結 (ゆい)
〒063-0812
札幌市西区琴似2条5丁目
マンションモモ1F

TEL : 011-623-2505
FAX : 011-613-9323



イオン黄色いレシートキャンペーン

「NPO法人ライフBOX」に黄色いレシート投函のご協力をお願いいたします!!

ジャスコ桑園店（北海道札幌市中央区北8条西14-28）にて、NPO法人ライフのBOXが設置されています。ぜひイエローレシート投函をよろしくお願いいたします。

*毎月11日のイオン・デーには、地域のボランティア団体などの名前と活動内容を書いた投函BOXがお店に置かれています。この日は、お客さまがレジ精算時に受け取られた黄色いレシートを応援したい団体の投函BOXへ入れていただくと、お買い上げ金額合計の1%が地域ボランティア団体などに希望する品物及びイオンギフトカードで寄贈されます。

☆幸せの黄色いレシートの流れ（イオンHP参照）

STEP1

毎月11日にお買物をされたお客さまは、精算時にレジで黄色いレシートを受け取ります。

STEP2

投函BOXは応援登録団体別に仕切られ、活動内容が表示されています。お客さまは黄色いレシートや投函カード(*)を、応援したい団体のBOXに投函します。

STEP3

イオンは、団体別にレシート金額を集計し、「合計金額の1%および投函カードによる贈呈額」を、団体の活動に役立てていただきます。

*投函カードは、買い物袋スタンプカードの交換商品の一つ。1枚当たり贈呈額は100円です。



黄色のレシート

ご協力ありがとうございます

アドボケイト購読料

※アイウエオ順

賛同会費

寄付

維持会費

建設資金

編集後記：短い北海道の夏がやってきました。札幌でも新型インフルエンザが発生しました。皆さんも気をつけましょう!!

同封しました郵便振込用紙は、請求ではありません。必要な方にお使いいただくために同封しておりますので、ご容赦願います。

なお、振込をいただく場合は

- ・維持会費 1口 10,000円（何口でも可）
- ・賛同会費 1口 3,000円（何口でも可）
- ・アドボケイト購読費 年会費 2,400円
- ・共同住居建設資金
- ・寄付金

などをご記入くだされば幸いです。

アドボケイト 6月号（第107号）

2009年6月10日発行（毎月10日発行）通巻第447号
HSK通信1973年1月13日第3種郵便物認可

発行人/北海道身体障害者団体定期刊行物協会
細川 久美子

〒063-0868 札幌市西区八軒8条東5丁目4-18

編集人/NPO法人札幌・障害者活動支援センターライフ
事務局長 石澤 利巳

〒063-0812 札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションモモ1F
TEL 011-633-6666 FAX 011-615-4132

E-mail npolife@beach.ocn.ne.jp
ホームページ http://npolife.net/
郵便振替口座 02710-4-63485